

令和2年度事業計画

1. はじめに

我が国は少子高齢化が進み、2025年以降は「高齢者の急増」から「現役世代の急減」に局面が変化します。すでに団塊の世代より人口が多くなった団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年には、社会保障制度の継続がさらに難しくなると予測されています。だからこそ、長く元気に活躍できるような多様な就労、社会参加、健康寿命に係る諸問題の解決が求められています。そのために、早い時期からの対処と科学技術などの多方面からの支援が必要とされています。

公益社団法人長寿社会文化協会は、設立当初から、社会参加等による生き甲斐づくり、介護人材育成、就労支援、地域の活性化、介護予防事業などの分野において牽引的役割を發揮し、明るく元気で活力ある長寿社会の構築と発展に寄与することを目指して活動してきました。WACが掲げてきた理念を多くの高齢者のみならず多様な世代と分野に広げていくよう努めます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を色濃く受けることが予想され、利用者数や収入の落ち込みが一部事業で危ぶまれています。一方、昨年度、内閣府の定期立入検査において自治体からの研修等の受託の増加を助言されましたが、令和2年度、「入門的研修」、「家族介護教室」で新規の自治体からの受託がすでに内定されています。

公益事業では「千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理事業」が第四期指定管理の2年目で開館から15周年の節目の年です。千葉県高齢者福祉計画に沿って重点課題に取り組めるよう自治体や地域包括支援センターと情報を共有化し課題に応える事業を進めます。「みなと＊しごと55」は55歳以上の無料職業紹介所として、都内に12カ所あるアクティブシニア就業支援センターでトップクラスを維持しながら特色ある取組みを実施します。「福祉サービス第三者評価事業」は、事業継続できる体制づくりに努めます。「コミュニティカフェ事業」は自治体と連携した開設講座等を増やし、コミュニティカフェ受講生のネットワークづくりを進めて会員拡大にも繋げます。

収益事業である「高齢者福祉関係人材育成事業」「高齢者・認知症疑似体験事業」は、収益基盤強化を図ります。具体的には、自治体との連携を強化して、生活支援サービス研修を軸に、時代に求められる研修を取り入れて収益拡大を目指します。「高齢者・認知症疑似体験事業」は、新たなマーケット創出を目指して商品およびプログラムのブラッシュアップを図ります。既存顧客の掘り起こし、WACポイントと連携したインストラクター養成研修開催等により顧客拡大を図ります。また「認知症疑似体験事業」については事業拡大に向けてプログラムのリニューアルを図ります。

新規会員・新規WACポイント獲得のため、WACポイントの活動支援のためのHPの活用、会員交流の支援、寄附金の取扱いなど会員サービスの強化を図ります。また、新規事業の開発に取り組んでいきます。

以上を実現させるため、各事業の3か年計画の作成、内規の見直しによる事業環境の整備を進め、事務局会議、常務理事会、理事会で協会のガバナンス向上を図ります。

2. 会員に関して

会員拡大は本協会の喫緊の課題であり、新規会員獲得、既存会員の継続に向けて会報誌等を通じて会員に役立つ情報提供をするなど魅力あるWACとなるように努力します。賛助会員費は寄付金に該当するため、令和元年12月に認められた税額控除の対象団体としての利点をアピールして会員拡大に役

立てます。会員からの要望でもある交流イベントの実施、ポイント等の活動支援を行い、個人会員拡大を目指します。活動支援の一つとして、会員活動保険を拡充します。法人会員については、高齢者・認知症疑似体験事業等により新規会員の獲得を図ります。

(単位=千円) *会員拡大のための経費は一般管理費等より支出

収入予算
3,600

3. 事業に関して

【公益目的事業】

【公1事業】 <<高齢者福祉増進・啓発事業>>

○高齢者の福祉・健康・生きがいづくり等支援事業 (千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理)

令和2年度は、第4期指定管理(2019年4月1日～2022年3月31日)の中間年度になり、次期指定管理申請の実績評価として重要な年となります。千葉県高齢者保健福祉計画の基本理念・施策の推進方策に沿って重点課題(地域包括ケアシステムの構築など)に取り組めるよう、自治体や地域包括支援センターの現状を把握して課題に応える事業を進めます。

開所以来15周年でもあり、記念イベントを開催して利用者数・利用率・利用料収入の増加を目指しますが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため千葉県から要請され、令和2年2月27日から休館が続き、新年度は休館でスタートすることになりました。休館期間の延長によって、事業計画の見直しに迫られておりますが、事業の日程等調整・経費削減に努めて事業推進と収支の適正化を図ります。

①介護実習センター

県民研修(一般・専門職)を120講座、認知症啓発イベント、福祉機器展

②介護予防トレーニングセンター

介護予防講習11講座、全500回以上で講習の多様化を目指す

③ふれあいホール

15周年記念イベントとして参加型ジャズコンサート

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
89,850	89,850	0

○福祉サービスの質の向上事業 (福祉サービス第三者評価事業)

国(厚労省)から福祉サービス第三者評価の推進に関する通知、ガイドライン等が相次いで示され、東京都の第三者評価制度も大きく改定されました。その中であって、WACはこれらに対応できる事業体質の構築という観点を含めて事業推進に邁進してきましたが、多様化する事業所に対応するための課題は厚く、解決は容易ではありません。

よって、令和2年度は、新しい事務局体制のもと、事業の基盤となる評価員の人材確保を中心とした三か年計画を作成して事業の存続と適正化に努めます。

①三か年計画の作成と実行

人材確保の骨子 新人発掘、リーダー候補者養成、紹介・リクルートの推進

②事業規模

評価件数	目標 30 件 (収入 1,050 万円)
利用者調査等	目標 5 件 (収入 150 万円)
評価者	リーダー：延 30 人、一般評価者：延 50 人

③体制整備

- ・ 内部研修、苦情相談体制の整備 (評価者・リーダー会議、職員ミーティング、研修)
- ・ 顧客開発体制整備、評価関係業務の見直し

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
12,000	12,000	0

○長寿社会の啓発事業 (「ふれあいねっと(会員向け情報誌)」の発行)

令和元年度、会報誌「ふれあいねっと」及び「ふれあいねっと瓦版」は、各1回、合計2,700部発行しました。ホームページのリニューアルは着手しましたが計画途上で完成に至ってません。

令和2年度は会員と本部を繋ぐ情報誌として充実を図るため、人材確保を行って実効性を高め、昨年度以上の発行を目指して広報活動の強化を図っていきます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
0	2,000	▲2,000

【公2事業】 <<高齢者の雇用・就労支援事業>>

(「みなと*しごと55」港区アクティブシニア就業支援センター)

令和元年度は前年に引き続き、人手不足等の影響もあり、求人は増加傾向にあります。求職者にとっては自力就業の機会が増え、その影響もあり来所求職者数が減少傾向にあります。

このような環境の中、具体的取り組みとして、求職者増のために、港区や東京都、その他団体との協力体制の強化、広報みなと等への告知、ポスティング、新聞折り込み、ホームページの拡充等によりさらに認知度の向上に努めます。多くの求職者が集まるように魅力ある企画、オリジナルな研修を実施していくと共に、一人一人のマッチングの精度を高めていくことに努力します。

<目標> 就職数：240人 求人開拓件数：1,600件 求人開拓延人数：3,500人
求職者数：2,200人(新規：1,000人、再来：1,200人)

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
24,810	24,810	0

【公3事業】 <<地域の相互扶助機能活性化事業>>

(コミュニティカフェ)

令和2年度は、自治体関連との連携によりコミュニティカフェ開設講座を開催します。令和元年度実施した府中市に加え、新たに埼玉県と連携した実施を予定しています。自治体のニーズに合わせた講

座の企画・運営、講師派遣にも取り組みます。

また、コミュニティカフェの運営・交流支援を行う「全国コミュニティカフェ交流会」を府中市と共催で開催する予定です。助成金にチャレンジして、ネットワーク化を模索します。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
900	900	0

【収益目的事業】

新体制で計画的な事業推進を行います。

〔収1事業〕 《高齢者福祉関係人材育成事業》

・東京しごと財団委託研修

- ①シニア生涯ワーキングセミナー委託事業 収入予算 22,226千円
就労支援に向けた研修(60回)を受託し、シニアワーキングセミナーを実施。
- ②生活支援サービス研修 収入予算 1,450千円
生活支援サービス研修(29時間/5日×年6回)実施。飯田橋3回、国分寺2回、立川1回。

・自治体委託研修

- ①八王子市介護人材養成研修事業、就職相談会事業 収入予算 4,000千円
生活支援ヘルパー研修(2日×年2回)と入門的研修(24時間/5日×年2回)、研修修了後に就職相談会を開催。
- ②東久留米市介護人材養成研修事業、就職相談会事業 収入予算 2,308千円
入門的研修(21時間/7日×年2回)を行い、研修修了後に就職相談会(1日×2回)を開催。
開催時期7月、11月
- ③江東区高齢者家族介護教室 収入予算 1,295千円
高齢者家族介護教室(概ね15時間/11日)
開催時期7月1日～1月20日(月1,2回)

・WAC主催

- ①介護職員初任者研修(通信) 収入予算 880千円(11万円×8名×1回)
東京都社会福祉協議会介護職員初任者研修資格取得支援事業(1名11万円の補助)を活用。
開催日時: 令和2年9月～(21日間) 定員 18名/1回
- ②千葉県県民研修等 収入予算 3,721千円

(単位=千円)

	収入予算	支出予算	収支残
入門研修、生活支援、県民研修	13,654	9,500	4,154
シニア生涯ワーキングセミナー	22,226	16,800	5,426
合計	35,880	26,300	9,580

〔収2事業〕 ‹高齢者・認知症疑似体験事業›

・高齢者疑似体験事業及び認知症疑似体験事業

営業推進とWACの強みである質の高い研修の提供を継続的に行うため、綿密な情報の共有化と役割分担を明確にして事業展開を行います。新たな顧客の開拓に関しては、令和元年度に依頼が連続したイベント会社等の新たな業界との取り組みの経験を活かしてチャレンジします。依頼主の要望に合わせてプログラム内容を開発した実績をもって、今後の多様な要望に応える柔軟な事業運営に臨みます。

①インストラクター研修

WAC本部/年3回(6月、9月、3月)1名19,500円(内会費3,000円)

出張インストラクター研修/高知県社協、静岡県藤枝市社協で開催予定

②顧客への取組み等

業種別プログラム開発、ホームページでの発信

(単位=千円)

	収入予算	支出予算	収支残
高齢者疑似体験	13,700	7,000	6,700
認知症疑似体験	2,000	1,900	100
合計	15,700	8,900	6,800

〔収3事業〕

‹介護予防委託事業›

(品川区委託事業)

認知症、高齢者引きこもりの予防、生きがい・仲間作りの支援のため、自治体から介護予防事業として委託を受け、引き続き取り組みます。

・男の手料理教室、わくわくクッキング、食事処

事業は15年目を迎え、高齢者の介護予防事業として、東京ガスと協同で行っている品川区の委託事業です。教室受講生も運営する側も高齢者であり、料理を通じて、生きがい、健康、仲間づくりができており、介護予防事業として評価されています。令和2年度も引き続き継続実施します。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
4,720	4,600	120